

# 学校規模で見る教育環境のちがい

三浜小学校地区別懇談会資料  
平成23年6月 四日市市教育委員会

4月の地区別懇談会では、三浜小学校アンケート結果から、小規模校の現状についてお知らせいたしました。今回は、ご要望をいただいた「大規模校と小規模校のメリット・デメリット」について、その環境によるちがいを比較してみます。

## ◆学習・指導面での観点

### メリット

### デメリット



小規模校	学習・指導全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人の個性や特性に応じて指導してもらえる。学習内容の密度が濃い。</li> <li>○児童一人一人が主役として活躍しやすい。</li> <li>○教材、教具の割り当てが多い。特別教室を十分活用できる。</li> </ul>	学習・指導全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童同士及び教職員からの情報量が少なく、多様な知識や価値観が育ちにくい。</li> <li>●総合学習の時間等において、多様なグループ分けが難しい。</li> <li>●成績が序列化しやすく、挑戦しようとする意欲が低下する。</li> </ul>
	学校行事・クラブ活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業や運動会、文化祭等の学校行事で活躍の場が豊富である。</li> <li>○自分の入りたいクラブや委員会等に比較的容易に入ることができる。</li> </ul>	学校行事・クラブ活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>●種目内容等が制限される。準備や後片付けの負担感が強い。</li> <li>●クラブや委員会の種類が限られ、選択の幅が小さい。</li> </ul>
	学習・指導全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多様なクラス替えが可能となり、新たな人間関係が、多面的なものの見方や価値観の形成につながる。</li> <li>○互いの競争心が活発になり、学習意欲が向上する。</li> <li>○教職員数が多いため、総合学習などにおいて選択の幅が広がる。</li> </ul>	学習・指導全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童一人一人が授業で体験し、活躍する場が少ない。</li> <li>●教材、教具等の使用が十分できない。また、特別教室、体育館、運動場、プール等の割り当てに余裕がない。</li> <li>●児童一人一人の習熟度や個性に対応した指導がむずかしい場合がある。</li> </ul>
大規模校	学校行事・クラブ活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運動会、文化祭等で多様な種目や演目の設定が可能となり、活気あふれるものになる。</li> <li>○クラブや委員会活動などで、選択の幅が広がる。</li> </ul>	学校行事・クラブ活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童一人一人が活躍する場が少ない。</li> <li>●人数が多く、一人あたりの活動量が少なかったり、活動の場所が狭かったりする。</li> <li>●卒業式等の学校行事に全員が参加できない場合もある。</li> </ul>



## ◆人間関係・生活面での観点

### メリット

### デメリット



小規模校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童・教職員・保護者それぞれが互いをよく知り、結びつきが強い。</li> <li>○児童にとっては、自分のことを理解してもらえるとという安心感を得やすい。</li> <li>○教職員に児童一人一人の特性や家庭環境等を把握してもらいやすい。</li> <li>○全校が一体となった活動がしやすく、団体行動がとりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人間関係が固定化、序列化しやすく、少数の意見が団体の行動を支配する傾向がある。</li> <li>●学級編制が固定化しているため、人間関係に破綻を生じると修復が困難となりやすい。</li> <li>●児童間の交流が限られているため、適度な刺激や切磋琢磨の機会が少ない。</li> <li>●多様なものの見方や多様な価値観に触れる機会が少ない。</li> <li>●役割が固定しがちで、集団における役割の変化に乏しい。</li> <li>●教職員に依存する傾向があり、主体性や社会性が育ちににくい。</li> </ul>
大規模校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○効果的なクラス替えが可能となり、新たな価値観や人間関係を形成する機会が多く持てる。</li> <li>○多種多様な人間関係の中で、刺激を受け互いに切磋琢磨する機会が多い。</li> <li>○児童間の役割が固定せず、委員会活動などでも一人あたりの負担が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人数が多すぎ、交友関係等が希薄になりがちである。</li> <li>●同学年中心の結びつきが中心となり、異学年との交流が希薄になる。</li> <li>●集団に埋没し、個性を発揮できない児童が出てしまうことがある。</li> <li>●役割分担のない児童が生じやすく、行事等への参加意識が低下しやすい。</li> <li>●人数が多いため、活動に時間がかかり、効率が悪いことがある。</li> </ul>

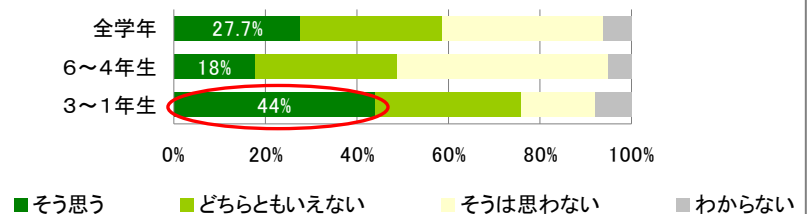


右の図は、H22 度末のアンケート問2、問6の集計結果です。いずれも上記一覧の記述と同じような結果が表れています。特に低学年において、友達関係や役割の固定化が見られます。

今回は、環境によって生じうる一例をあげましたが、実際は、各学校が、これらのデメリットを解消する工夫や手だてを講じる努力をしています。しかし、それだけでは、解消できない課題があることも事実です。



問2 友達関係がいつも同じで、グループにおける役割が特定している



問6 委員会活動、行事等で一人ひとりの活動の場が多い

